

※表題は年度初めに進路部から出している「新宿高校の進路指導〈新宿進化〉」から採りました。

## 私の大学進学、私の就職

校長 戸田 弘美

進路講演会などで皆さんと一緒に講師の方の話を聞くと、「将来のためには、〇〇すべきです。〇〇が大切です。」という話より、「私は〇〇でした。」という話の方が正直、興味が湧く。という訳で、私も自分の経験を書くことにする。皆さんの手本になることは一つもないが、これをきっかけに、皆さんが各々、自分の人生について真剣に考えてくれることを期待します。

### 1. 私の大学進学 — 「迷い道」は、必要な道 —

高校2年の頃まで、将来の職業、そのために進みたい学部を自分自身は決めていた。しかし、親に打ち明けると、お前は何を考えているんだ、才能もないのに無理だと猛反対された。反発したり悩んだりしたのだが、全く受け入れてもらえない。親の反対を覆すほどの根拠も自信もなかった。結局、やりたい事は趣味にすればよいと、自分に言い聞かせて、他の道を探すことにした。その後、なかなかやりたい事が見つからず、悩んでばかりで苦しい時間を過ごしていたが、何とか進みたい道、受験先が見つかった。ところが今度は、学力が追いつけなかった。浪人までして頑張ったのだが、到達できるまでの学力には至らなかった。よほど頭が悪かったようだ。そんな受験生活を経た末、筑波大第一学群自然科学類(一般の理学部にあたる)数学科(2年次に数物化地球科学の中から選べる)に進んだ。入学時は憑き物が落ちたようにすっきりした気分だった。よくぞ入学させてくれたと感謝している。大学の数学はあまりにも難解で悪戦苦闘したが、充実した大学生活を送ることができた。「迷い道」、挫折は、私にとって、必要な道だった。

### 2. 私の就職 — 自分の「嗅覚」を信じる —

私は人と関わることが好きなので、大学3年の頃から数学の教員になると決めていた。今回は迷いがなかった。都立高校出身で愛着があったので、都の採用試験を受けた。ただ、私立高校にも少し興味があったので、教育実習の指導教官に「私でも良ければ紹介してください。」と頼んでおいた。すると後日、その先生が嬉しそうに連絡をくれた。「良い学校の採用があったので推薦しておいたよ。生徒は、家庭訪問するとピアノを弾いて、もてなしてくれるような家庭だ。」と言っていた。どんな学校か見に行こうと思ひ、学校に行ってみた。通学時間帯であり、私は一人、生徒たちの入る校門横に立った。小中高校生が制服を着て整然と通学していた。しばらく立っていたが、ここではできない、無理だと感じた。どうにも違和感があり、肌が合わなかった。指導教官には申し訳ありませんと断った。その後、幸いなことに都の採用試験に合格し、初任の高校が決まった。東京の西部地区にある学校だった。TVで仲間由紀恵の「ごくせん」を見た時、ちょっと昔の私とかぶるなあと勝手に思った、そんな学校だった。驚きの連続で仕事はとても大変だったが、最高に楽しかった。学校から自宅に帰り、荷物がどうも重いと思ったら、持っていった弁当を食べるのを忘れていたということが何度もあった。それほど学校に没頭し

ていた。担任をもって、さらに張り切った。初めての家庭訪問は、肉屋さんの奥の4畳半一間だった。部屋中に大量の洗濯物が干してあったので、洗濯物越しに生徒のお母さんと話をした。気さくに部屋に入れてくれて、いろいろ話せたことが嬉しくて、小躍りしながら帰った記憶がある。私には、この高校が合っていた。授業、文化祭、どれをとっても、生徒たちとの思い出は、かけがえのない宝物である。こうして、我が教員人生はスタートした。あの時の、私の嗅覚は正しかったと今でも思う。

## 新入生 70 回生

4月7日、新宿高校第70回入学式が挙行され、新入生319名が入学しました。世間では、今年は戦後70年の節目の年と言われていますが、それは戦後に新制高校として再出発した新宿高校が歩んだ年月でもあります。70回生という節目の学年を迎え、みんなで新宿高校の新たな歴史を作っていきます。

7日に入学した1年生は、休む間もなく10日・11日の箱根セミナーに出かけ、新宿高生としての心構えを学んできました。そして今週月曜日から待ちに待った授業が始まっています。そこでアドバイス。2、3年生もこの機会に学習法を振り返ってみましょう。

### その1. 勉強する習慣をつけよう！ 毎日予習！復習！

高校の授業で驚くことは各科目の専門性とその進み具合でしょう。特に授業の進度は中学校とは比較になりません。今日習ったことは翌日には既に皆が完全に理解したものとして、それを基礎にして先へ進みます。毎日の予習、復習は欠かせません。箱根セミナーで教わったことも含め、学習法を再確認してみましょう。

**英**語は、1ページの中に分らない単語20以上あるかもしれません。辞書を引いてもいくつかの意味があり、どの意味か確認するのも時間がかかります。つまり毎日辞書引きに追われるかもしれません。しかし、分からないなら調べるしかありません。予習は必ず行いましょう。そして音読。その日に学んだ箇所を大きな声で音読しながら内容の復習を行うと良いそうです。

**数**学は論理性（何がどうしてこうなる）の追求が肝心です。答えが合うか合わないかということよりも、そこにたどり着くまでのプロセスが重要。間違えたらなぜ間違えたのかを確認する作業を行いましょう。そして、数学が苦手だという人こそ、しっかり予習をして授業に真剣に取り組んでください。また、ノートの取り方も工夫してみましょう。授業のあとで振り返ってみて役に立つ自分なりのノートが出来ると素敵です。

**国**語。現代文では教材をよく読んだ上で授業に臨みましょう。また、古典では、文法や漢文句形などの基礎知識をしっかり覚えることが大切です。国語にも予習は必要です。予習なしではせっかくの授業が無駄になってしまいます。

### その2. 定期考査は100点を目指そう！

定期考査は出題範囲が決まっています。ほとんどが授業で習ったことです。100点を取れないことはないのです。平均点以上とすることで満足せず、是非満点を目指して取り組みましょう！

### その3. 先生に質問しよう！

授業でわからないところは、積極的に担当の先生に質問しましょう。教員室の座席は教科ごとに並んでいます。担当の先生が不在でも、その近くの席の先生に尋ねてみましょう。授業以外のわからないことは担任の先生に相談しましょう。進路関係のことなら進路部の先生も相談にのってくれます。いずれにしても、自分から動き、声を出すことが肝要です。

## 2015年大学入試結果 【国公立大等】

大学	現役		既卒
	前期	後期	
北海道	4		1
秋田	1		
東北	3		1
茨城	1	1	
筑波	6		1
千葉	6	1	2
群馬		1	1
埼玉			2
埼玉県立			1
お茶の水女子		1	
電気通信		1	
東京医科歯科	2		
東京外語	5	1	
東京海洋	3	1	
東京学芸	6	1	2
東京工業	4		2
東京農工	8		2
首都大東京	11		
横浜国立	6	1	1
横浜市立	4		
神奈川県立保健福祉	1		
静岡	1		
信州	1		2
富山			1
京都	1		
名古屋工業	1		
岡山			1
鳥取		1	
鹿児島			1 (医)
九州工業			1
防衛大学校	1		
国立看護大学校	1		
計	87		22

※現役浪人あわせて109名と躍進しました。

### 【主な私立大】現役生のみ・延べ人数

早稲田	47	立教	45
慶應義塾	17	中央	36
上智	16	法政	31
東京理科	36	青山学院	25
明治	81	学習院	10

## 今年度の進路指導部の先生

進路部 専任	村田勇司 先生 (主任・国語) 吉田先生 (副主任・化学) 井 先生 (英語) 大谷先生 (日本史) 小林啓子 先生 (世界史) 宮田先生 (英語) 毛利先生 (数学)
1 学年	加藤義彦先生 (数学) 椎名先生 (英語)
2 学年	小竹 先生 (化学) 大伴 先生 (地理)
3 学年	先山 先生 (化学) 宮本 先生 (国語)

※ 進路指導室には、村田、吉田、宮本の各先生が常駐しています。

## 赤本ルール

進路指導室前の廊下と隣の資料室に、昨年度までの赤本があります。備え付けの「貸出簿」に氏名を記入すれば借りることができます。貸出期間は、当面は常識の範囲内で。(一週間ぐらい)

ただし、この時期に過去問をやっても解けるはずはないので、できないからといって落ち込まないこと。問題の傾向を知るために活用してください。

…読書案内…

### 『宇宙はこう考えられている』

ビッグバンからヒッグス粒子まで

青野 由利 著 ちくまプリマー新書 2013年

二十世紀に急速な進展をみせた宇宙研究の歴史と、今なお残る数々の謎を、平易な言葉と楽しいイラストで解説した本。ヒッグス粒子とは何か、宇宙はどのようにして始まったのか、暗黒物質の正体は?? など、専門的な内容が分かりやすく語られている。

著者の青野由利氏は新宿高校の卒業生。東京大学薬学部卒。毎日新聞社に入社し、その後、東京大学大学院総合文化研究科修士課程を修了。現在は毎日新聞論説室専門編集委員。2010年に科学ジャーナリスト賞を受賞した『生命科学の冒険』(ちくまプリマー新書)もお薦め。

## 「曲がり角、道草、5つのお勧め」

青野 由利

(毎日新聞論説室専門編集委員)

私が新宿高校に通っていたのはもう40年近くも前のことです。自分とは関係ないと思う高校生の方が多いでしょう。でも、「目の前に未知の可能性が広がっている」という期待と、「この先どうすればいいのか見当がつかない」という不安とが混在している点では、今も昔も変わらないのではないのでしょうか。

今、私は新聞社で科学担当の論説委員として社説やコラムを書く仕事をしていますが、高校生の時には想像だにできなかった職業です。振り返ればここに至る道は、曲がり角と迷いと道草の連続だったように思います。

ひとつの曲がり角は大学の専攻を選ぶ時。英語と科学の両方に興味がありましたが、「大学でしか学べないことを優先しよう」と薬学部を選びました。ところがそこで気づいたのは、実験があまりにヘタクソだったこと。思いがけないつまづきでした。

そんな時に、出版社が募集した懸賞作文に当選して、編集者の人たちと共にカナダを旅するチャンスがありました。「世の中には出版や編集という職業があるんだ」と知ったのがこの時です。

次の曲がり角がやってきたのは就活の時。当時は雇用機会均等法もなく、4大卒の女子というだけであちこちで門前払いされるという挫折を味わいましたが、その中で誰にも門戸を開いていたのが新聞社でした。編集者と旅した影響もあり、それまでの専門は捨てる覚悟で受験し、運よく採用してもらうことができました。

ところが、入社して警察担当になり、「自分には向かなかった」と後悔する羽目に。それでもやめる決心がつかないまま、科学部に配属され、生命科学、医学、地震、火山、宇宙などの取材を続け

るうちに、最先端の科学を研究者から直に聞き、それを文章にするおもしろさにめざめました。その一方で、日々、時間に追われる生活の中で、「このままでは消耗してしまう」という気持ちがつつり、思い立ったのが留学です。

入社8年目にしてでかけた1年間の米国留学ですが、この時、強く思ったのは「英語を身につけるためにも、人生の選択肢を広げるためにも、もっと早く行っておけばよかった」ということです。

帰国後、新たな気持ちで科学取材に取り組んでいたのですが、しばらくすると再び「このままでいいのか」という思いにかられ、入社14年目で社会人大学院生に。なんとも落ち着きのない話ですが、ここでは信頼できる指導教官の元で研究する大切さを学びました。

10数年前に現在の論説室に配属され、なんとか腰が定まったかと思ったところに起きたのが4年前の原発事故です。得意分野ではありませんが、やはり、メディアも責任は免れないと感じ、以来、積極的に原発・エネルギー政策に取り組んでいます。

改めて自分の体験を振り返って高校生の方々に勧めたいのは次の5点です。

- ① 留学しよう（語学は絶対必要！）
- ② 師匠を見つけよう（身近にいる人でも、歴史上の人物でも、人生に迷った時に足元を照らしてくれる人を見つけるのは大事）
- ③ 孤独を恐れるな（進路でも、留学でも、他の人とは違う自分の選択を大事に）
- ④ 目標は楽観的かつ執念深く（最初から無理だと思わずに、まずはやってみてから）
- ⑤ 「いつでも遅すぎることはない」を忘れずに（時には道草をして考えることも大事）

進路選択にも、職業選択にも、唯一の正解があるわけではありません。もう一度高校生に戻れるなら、この5項目に従って、まったく別の職業についているかもしれません。

今年度から、朝陽同窓会のご協力を得て卒業生の諸先輩から在校生に向けたメッセージを掲載しています。